

アジア

AR247

2024年5月~8月号

レポート

どうなる香港の将来？
2023年会計報告

表紙写真：Ho Chun Yan

どうなる香港の将来？

吉田 隆 アジア・アウトリーチ・ジャパン主事

2024年3月、香港からサニー・チェン牧師夫妻が来日しました。サニー師は、今から30年前の1994年、私たちが中国宣教に出かけるよりも前に、アジア・アウトリーチ香港の働きを紹介するために来日し、一緒に日本の教会を巡回させていただきました。その後、私たちの家族が香港に住んで宣教の働きをした時にも友好を育みました。サニー師はアジア・アウトリーチ香港の働きから、セルチャーネットワークとアフリカの少年少女のクワイアーWatotoを引率する働きに移りましたが、今もアジア・アウトリーチ香港の理事会の一員として関わり、日本を愛して何度も来日してくださっています。

今回は奥様のジニー師（香港中華純福音ヨルダン教会牧師）と日本の早春を味わう旅にお越しくださいましたが、変わりゆく香港の現状についてお聞きすることができました。

吉田（以下Y）：私たちが香港に滞在していた1997年に、英国の統治下にあった香港が中国に返還される、という歴史的な出来事が起こりました。その時、キリスト教界のリーダーである牧師たちも含めて、多くの香港人が外国へ移民しました。ところが現在、その時よりも多くの人々が外国へと移住していると聞きました。その理由を教えてくださいませんか？

サニー（以下S）：多くの牧師たちが香港を離れている理由が、主に3つあります。第1は政治的な理由です。彼らは、香港政府の立場や政策に激しく反対しています。ここ2、3年の間、彼らは政治的な問題に対して公に抗議しています。ある人々はブラックリストに挙げられています。それで身の安全、家族の安全、教会の安全を守るために香港を離れる道を選びました。だからと言って、香港に現在残っている者たちが政治的な現状に賛成しているわけではありません。その中の多くが、ここ数年のうちにも移住するかもしれません。別の牧師たちは、法に触れない形でのように牧会できるかを、学んでいる途上にあります。

第2番目は、子どもたちの自由のためです。香港を離れた人々のほとんどは、15歳以下の子どもを持つ若い世代

の両親です。これは牧師についても言えることです。信仰や意見の自由が許される環境の中で、子どもたちを育てたいと考えているからです。

第3番目は、英国だけを例にとっても25,000人以上の香港からのクリスチャン移住者が、中国語を話す教会に加わっています。わずかここ2、3年の間に教会の平均出席者数は29%の伸び率を示しています。こうした教会の1つは信徒数が250人から1,500人に増加しました。そういうわけで、北京語ではなく香港人クリスチャンのために広東語を話す牧師の必要性が生まれています。そういうわけで、英国に移住した香港人クリスチャンのために多くの牧師が招かれ、または送られているのです。

Y：そういった状況の中で、サニー先生ご夫妻は香港に留まっていますね。その理由をお聞かせいただけますか？

S：まず、私の子どもたちは既に成長しており、自ら時勢を見分け、懸命な判断をすることが出来るような年齢になっているからです。

次に、私自身が香港を愛しているからです。私は香港で生まれましたし、私の親友のほとんどや近い家族は香港に住んでいます。多くの暗い側面を持つ地域もありますが、私は香港の良い面を愛しています。それはどこに言っても言えることです。物事には何でも長所と短所があります。私は、香港が他の都市に比べてより多くの有利な点を依然として保持していると考えています。私はこの町が、神様が願われる総体的により良い町になってほしいと願っています。私はそのために寄与してきましたし、これからもそうしたいのです。

そして、香港の教会は来たるべきこれからの時代に、学ぶべき多くのことがあると信じています。ただ生き延びるだけではなく、より強くなり繁栄することを。私は他の牧師たちや信徒たちと一緒に、どのように前進したらよいか、困難な時に共に耐え、素晴らしい時に共に祝うことができるように学んで行きたいのです。

Y：ある教会は、香港に現在あるキリスト教会の資産を、中国政府が没収してしまうのではないかと、恐れていると聞いたことがあります。いかがですか？

S：そういうことが既に起こった、という事例がまだあるわけではありません。ただ、学校の施設を教会の事務所として使用していた複数の教会が、立ち退きを迫られているというケースがあります。こうした教会は、香港政府によって提供されたキャンパス設備を持つ学校を運営している教会なのです。過去には、こうした設備を部分的に教会の事務所や宗教的な活動に使用することができました。今後こうした圧力は、学校でのミニストリーを制限するものとなるでしょう。政府が補助金を出している学校に於いて、伝道に妨げが生じる日がいつか来るのではないかと、憂慮されています。

もう1つ心配されているのは、教会の資産が教会の中央集権化に組み込まれてしまうのではないかと、ということです。現時点では、諸教会は登録され、多くの異なる形式で存在しています。その法人の規定の下に集う限りにおいては、教会が法的な統制を受けることはありません。しかし、教会のリーダーたちは、やがて中央集権的な宗教管理局が設立されて、教会を含めてすべての宗教団体が統合され、監視されるようになるだろうと予測しています。その時には、教会が公式に登録することを要求されるようになります。もし登録しなければ、非合法の団体と見なされ、その資産は没収されることになるでしょう。ある教会は、そうした宗教局の方針には全く賛成できないから、登録しないでしょう。

Y：中国本土では習近平氏の圧力下であって、家の教会は困難な状況の下に置かれていますが、香港の教会は全く異なるとお考えですか？

S：私たちの状況は、現在中国で起こっているのとは非常に異なっています。宗教的な政策も含めて一国二制度を約束した以上、中国は今もそれを維持したいのだと思います。しかし私たちは、最悪の事態が起こることにも備えています。

多くの教会は、小グループ単位のミニストリーについて習ってきています。実際、教会はその会堂や建物には限定されません。教会は、家であれレストランであれ、どこにでも存在し得るのです。また実際に顔と顔を合わせて集まることから、オンラインで集まることへと。ある意味でコロナ禍は、いやおうなくオンラインを強いられるようになったという意味で、貢献したと言えるでしょう。

Y：中国本土に居た福音宣教に携わる人々は追い出される事態になっていますが、香港に來ている外国人宣教師の場合はどうですか？

S：今のところ、滞在を拒否された宣教師がいるとは聞いていません。実際、香港は自分たちで自立して行くことが出来るとみなされ、過去25年の間に宣教師の数は減っています。現在香港に居る宣教師は、中国人以外の人々に対して、主に働きをしています。香港にある宣教団体はほぼすべて香港人のリーダーたちによって運営されています。中国本土向けの宣教団体は、1997年本土返還以前にシンガポールなどへ移りました。

Y：香港から中国本土に対する伝道は変わりましたか？

S：確かに、ここ数年の間に多くの宣教師が退去させられるというこのような状況下であって、香港から中国への宣教は大きく影響を受けました。オンラインによる訓練はその中の一つです。ビジネス・アズ・ミッション（ビジネスを通じての宣教）も一つの解決法です。個人的な伝道と弟子化が必然となっています。

Y：ありがとうございました。



サニー・チェン：アジア・アウトリーチ香港理事、Watoto アジア・ディレクター、香港セルチャーチ宣教ネットワーク委員



AOジャパン ホームページ作業にあった足跡



AOJ協議会 山の辺キリスト教会 柴原 佳高

私は神学生の3年の時に、1995年の海外アウトリーチで香港、北京を旅する2週間を過ごしました。その際に、アジア・アウトリーチの皆様へたいへんお世話になり、感謝しています。

その後30年近くが過ぎました。一昨年に、アジア・アウトリーチ・ジャパンのホームページを担当されていたK兄弟が重病になられ、昨年に天に召されたとお聞きしました。K兄はHPのすべてのことを引き受けられておられたということで、その後のHP上のデータを確保することや、継続して更新する手立てのために、私は少し関わらせていただきました。最近、主事の吉田隆先生と交流が多くなったことがあったからでした。

その際に分かったのですが、K兄は費用があまりかかからない範囲で、個人の契約を用いて工夫しながら、定期的にHPの更新をし続けておられたということでした。それは、たった5MBというほんのわずかなデータ容量の中で、ニュースと祈りの課題を定期的に掲載するための手

間のかかる作業を、長年にわたりずっと続けてこられたということでした。

例えば、写真の解像度を改めて下げたり、またニュースの文字をテキストデータにして別のファイルにしたりという、容量を小さく軽く抑えるためのご努力でした。そして、ちょうど、その小さな容量がいっぱいになってきた時に天に迎えられたのでした。

その形跡を見ることとなり、宣教活動の中に、表には見えにくいところでこのようなことが積み重ねられて働きが進んでいるのだと改めて思われ、K兄が長くご奉仕してこられたことへの感謝を思いました。

今後もインターネットの他にも様々な形で、この宣教が支えられ、主によって押し出される働きが進んでいきますように、お祈りを致します。

「愛する者よ。あなたは、兄弟たちのための、それもよそから来た人たちのための働きを忠実にしています。」

(Ⅲヨハネ1章5節)

アジア・アウトリーチ・ジャパン 2023年度 会計報告 (2023年1月1日~2023年12月31日)

収 入		支 出	
一般献金	1,413,741	国内経費	1,320,897
海外向け指定献金	6,306,890	海外送金	549,462
物品販売など	35,500	令和3年大雨災害義援金など	30,000
収入合計	7,756,131	支出合計	1,900,359
前年からの繰越金	853,383	次年度繰越金	6,709,155
総 計	8,609,514	総 計	8,609,514

注) 海外向け指定献金の中にはウクライナへ指定の義援金308,890円が含まれています。

主事：吉田 隆 会計：レフトサーリ・サミベッカ神之助 監査：中島 教芳

編集後記

- いつもアジア・リポートをお読みくださり、お祈りくださり、ご献金によってお支えくださいますことを感謝致します。
- 今回から、アジア・リポートの表紙デザインが変わったことにお気づきいただいたかと思います。新しい装いで、出発したいと考えております。
- 日本の諸物価が高騰しておりますが、それはお読みいただいていますアジア・リポートにも影響を及ぼしております。印刷費と送料が値上がりしております。さまざまな雑誌がデジタル化しております。そこで、今まで年間4回発行しておりましたアジア・リポートの発行回数を年間3回に減らさせていただくことに致しました。どうぞご理解くださいますようお願い致します。尚送料費削減のため、アジア・リポート

をEメール添付のPDFで配信ご希望の方は、aojapan@zeus.eonet.ne.jp までお申し込みください。

- アジア・アウトリーチ・ジャパンのウェブサイトが新しくなりました。<https://aojapan.org>
- 前号AR246の4ページでご紹介しましたアリス宣教師の記事の後編は次号で掲載させていただきます。ご了承ください。
- コロナ禍が明け、マレーシアからスタンレー・ジェラード師が来日します。2024年5月25日から6月10日までアジア・アウトリーチ・ジャパン主事の吉田隆と共に、京都、滋賀、大阪、兵庫、奈良、徳島、愛媛、香川、高知、岡山、広島

迫害されている
クリスチャンの
ために祈ろう!
hakugai.org